

農業体験しませんか?

農業体験 & 昼食 & 温泉

大田原市さくら市売所オーナー直々によるプロの農作業体験、昼食を召し上がった後、佐久山温泉めぐり。佐久山地区は一つ山に泉質の違う温泉が湧き出している日本でも稀な温泉地です。泉質の違う温泉をそれぞれお楽しみください。

最小催行人員2名 (10組限定) 料金2,500円
【白糠川・アソビです。】

内容	温泉体験
3月10日(日): ごぼう、ジャガイモ種まき等、レタス定植等	※泉質の異なる温泉めぐり
4月14日(日): トウモロコシ種まき、草取り等	※湯質: 高純度・ナトリウム・硫酸塩系
5月12日(日): トウモロコシ種まき、草取り等	※湯温: 55.0℃
6月 9日(日): ジャガイモ、玉ねぎ収穫、草取り	※色調: 白濁
7月21日(日): 人参、ほうろく、草取り等	※湯温: 72.6℃/min
8月11日(日): ほうろく、玉ねぎ種まき、草取り等	※湯温: 45.5℃
9月 8日(日): ほうろく、玉ねぎ種まき、草取り等	※湯温: 33.4℃/min

※9月の温泉めぐりはお好きな月を選択してください。

大田原市の魅力をPRするグリーン・ツーリズムのチラシ

大田原市の知名度アッププロジェクト

菊池 久光 議員

質問(菊池久光議員)

八溝山周辺地域定住自立圏構想及びグリーン・ツーリズムを含む定住者の促進、誘客のために、大田原市の知名度アップのPRをどのように考えているのか伺います。

答弁(市長)

八溝山周辺地域定住自立圏構想は、現在、庁内及び圏域内で、連携できる取り組みの事業について協議を進めています。八溝山周辺地域定住自立圏構想の事業を通じて、大田原市

を含めた圏域全体の知名度を向上させていくことができれば、結果的には大田原市への注目度もアップするものと考えています。

また、グリーン・ツーリズムの推進事業については、旅行者に大田原市でできるさまざまな体験や触れ合いを通して大田原市のファンを増やしていく事業であり、大田原市の魅力を発信するという意味においてPRの一翼を担う取り組みと言えます。具体的なPRの内

容は、ホームページ、ブログ等を活用し、常に旅行者に対して大田原市の魅力を発信し、旅行企画のポスター掲示やチラシの配布等を行い、旅行者へのアプローチを行います。

旅行者として大田原市を訪れてからが、グリーン・ツーリズムの本領を発揮することになり、地域の方との触れ合いが、旅行者の心に深い感動と感銘を残して、大田原市のファンになり、そして大田原市に住みたいという気持ちになるよう、グリーン・ツーリズム事業と観光施策との連携による取り組みが重要になってくると考えます。

君島 孝明 議員

野崎駅及び周辺地域の開発について

質問(君島孝明議員)

野崎駅の橋上化及び野崎駅の東地区の開発について伺います。

答弁(市長)

野崎駅の橋上化は、平成6年に西口及び東口の駅前広場並びに駅舎の橋上化を含めた基本構想を策定し、関係者の皆様に対し、構想内容をご説明した経過があります。

また、当時の新聞に具体的な事業費や完成年度についての記事が掲載されたことなどか

ら、東の駅前広場及び橋上駅舎が整備されるものと期待された方も多かったと思います。その後の経過は、JR東日本東京地域本社に対し基本構想を提示し、何度か協議を重ねました

が、費用負担及び財源等の問題により基本構想の具体化には至らず、当初の計画どおり野崎駅西土地区画整理事業の区域に含まれていた駅の西側だけを整備し、現在に至っていま

す。なお、JR東日本の発表によ

ると、野崎駅の乗車数は2011年が1日平均で1,260人であり、毎年微増の傾向であります。当面西口だけで対応できるものと考えています。従って、駅舎の橋上化については、

駅の利用者が著しく増加をしたり、財政状況が好転したりするなど、社会情勢が変化した時点で再度JR東日本と協議、検討したいと考えています。

野崎駅東地区の土地区画整理事業等は、当該地区の具体的な実施計画はまだ定まっておられません。まちづくりの手法や大田原市全体の事業、または財政状況などを勘案しながら検討していきます。



現在の野崎駅の東側の様子